

跡津川断層周辺での 地殻活動定常観測点の高性能化

加納靖之・大見士朗

東京大学地震研究所・京都大学防災研究所

謝辞：坑内-坑外ネットワークを使わせていただき
ありがとうございます。

査定額：0円

概要

■ 跡津観測点

- 神岡鉱山-410 m準

- 共同利用：神岡鉱山内に設置した地震計等のデータをリアルタイム伝送し、跡津川断層を中心とする中部日本の地震活動や地殻活動のモニターを行う。

- 高感度地震観測

 - 上宝観測所の定常観測網内の一点

- 地下水・地殻変動観測

 - 地下空間を利用した観測

上宝観測所

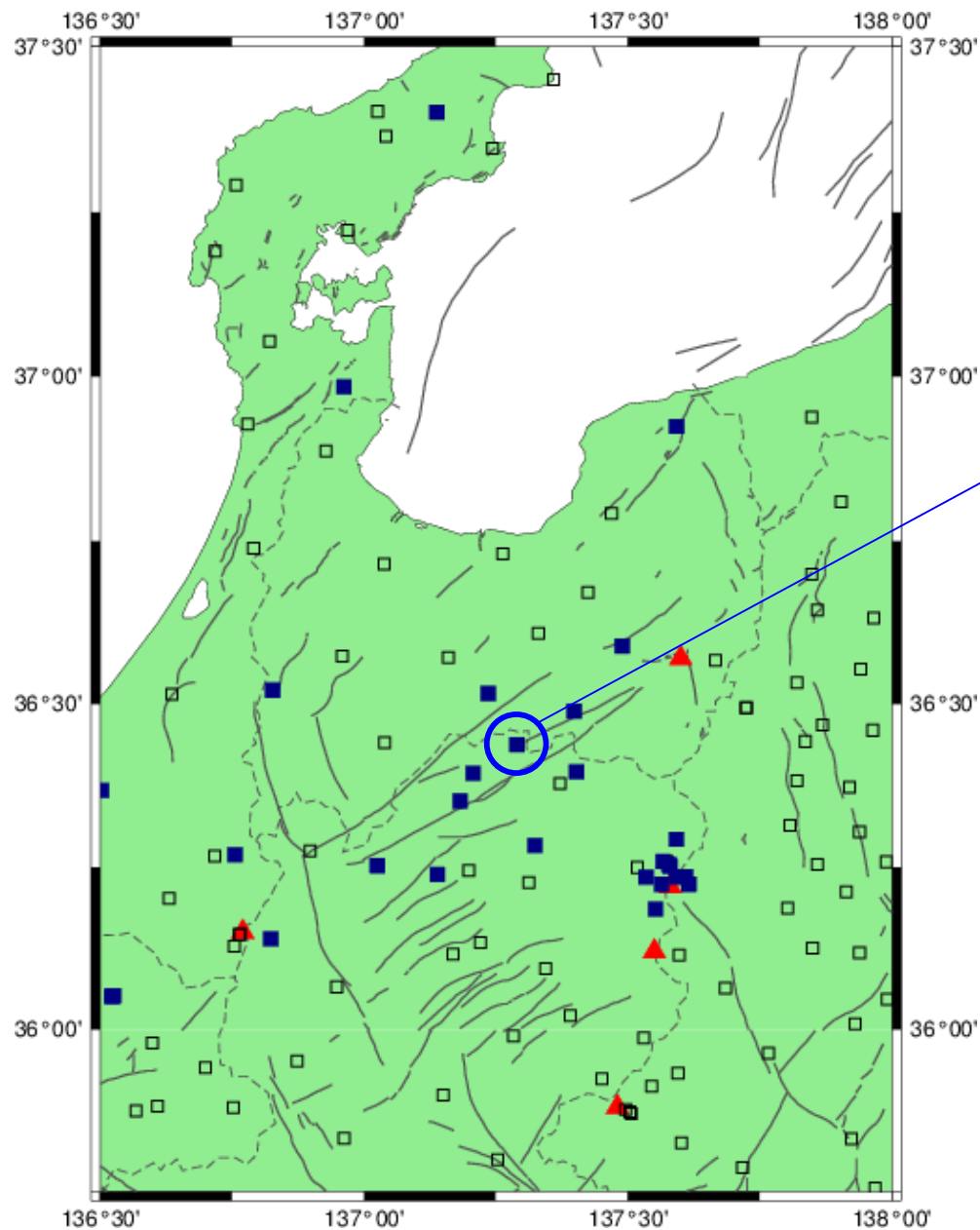
■ 1965年～

- 第1級の活断層である跡津川断層
- 旧上宝村からのご支援
- 海からの遠い場所での地殻変動観測

■ 現在

- 中部地方中北部の広域的な地震活動や深部地殻構造、さらには飛騨山脈脊梁の火山活動等の地殻活動の研究
- これらに基づく防災関連情報等での協力による地元への貢献

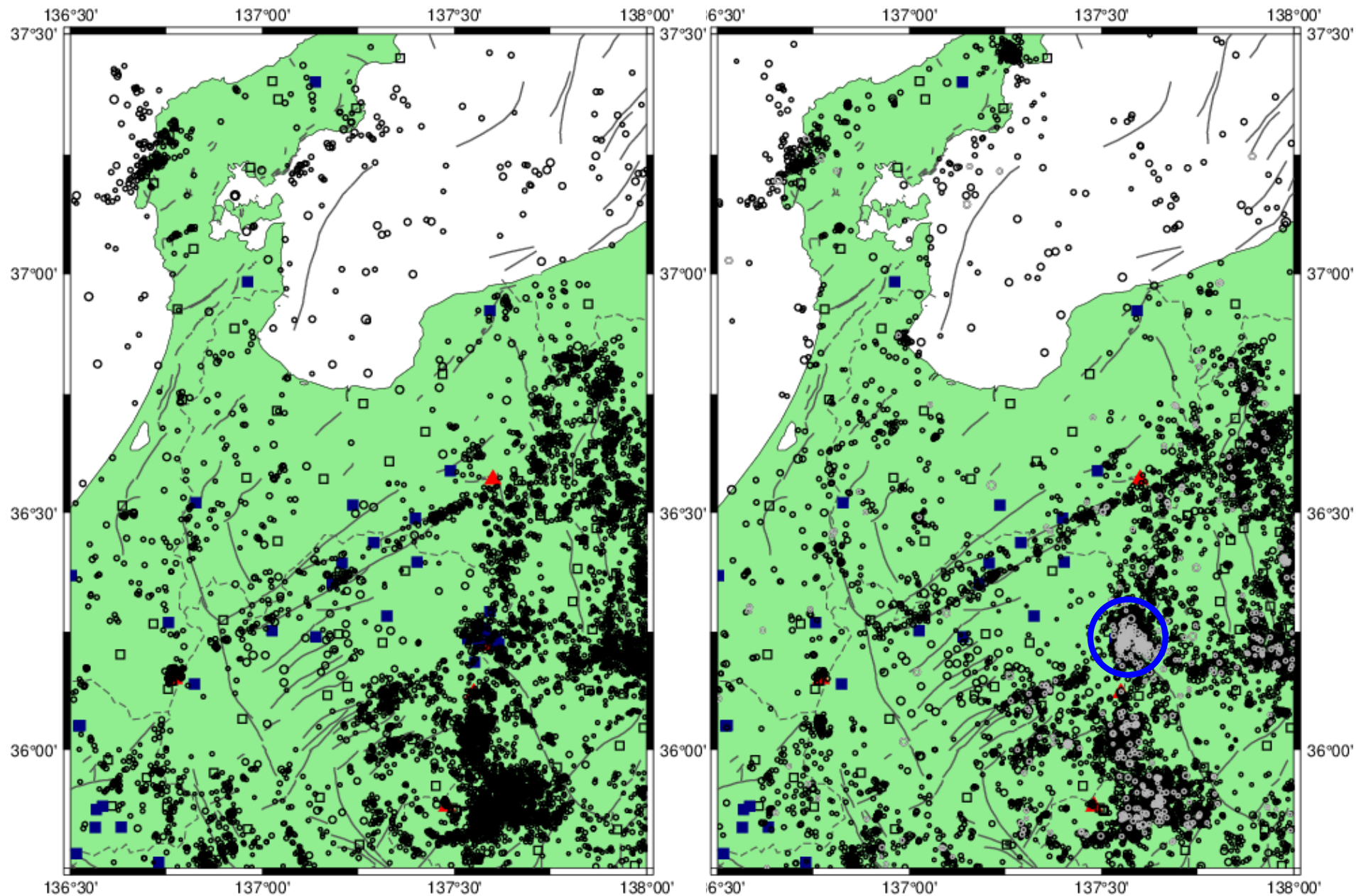
上宝観測所の観測網

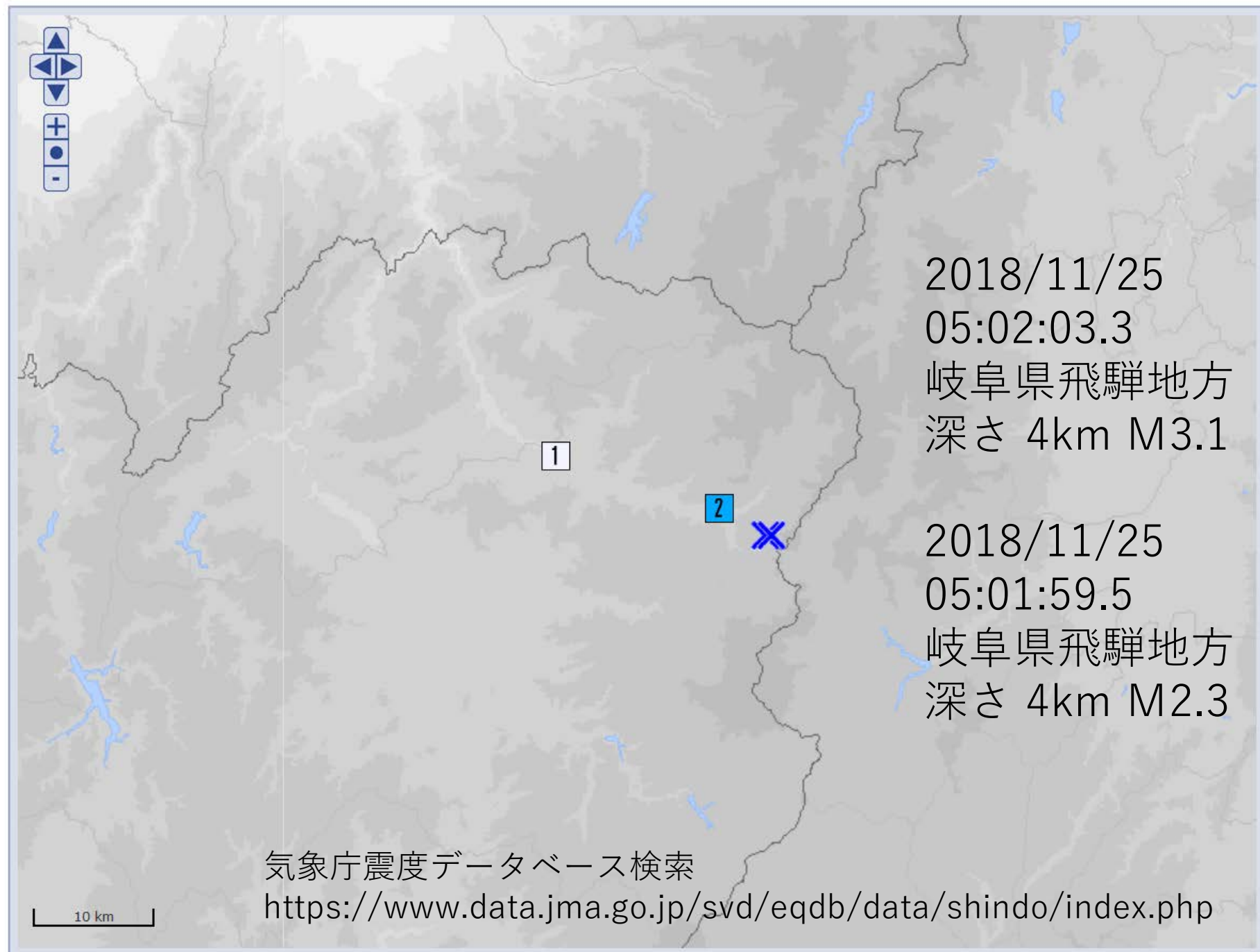


跡津
(DP.ATS)

最近の地震活動 (2017年・2018年)

気象庁一元化震源カタログ





○ 活動概況

12月4日20時頃から、山頂の東約2km付近で海面下約3kmとやや深いところを震源とする地震活動が活発化しています。なお、地震の数が非常に多いため、やや振幅の大きな（南峰南東観測点で30 $\mu\text{m/s}$ 以上）地震のみを計数しており、20時から21時までの1時間に28回（速報値）発生しており、21時以降も多い状態です。

11月22日から活発化した山頂の北西1kmから2km付近の地震活動は徐々に低下しながら継続しています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されておらず、震源の浅い場所へ移動は認められていません。また傾斜計による観測でも山頂方向の隆起は認められません。噴煙の状況は雲のため不明です。

以上のことから、この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。

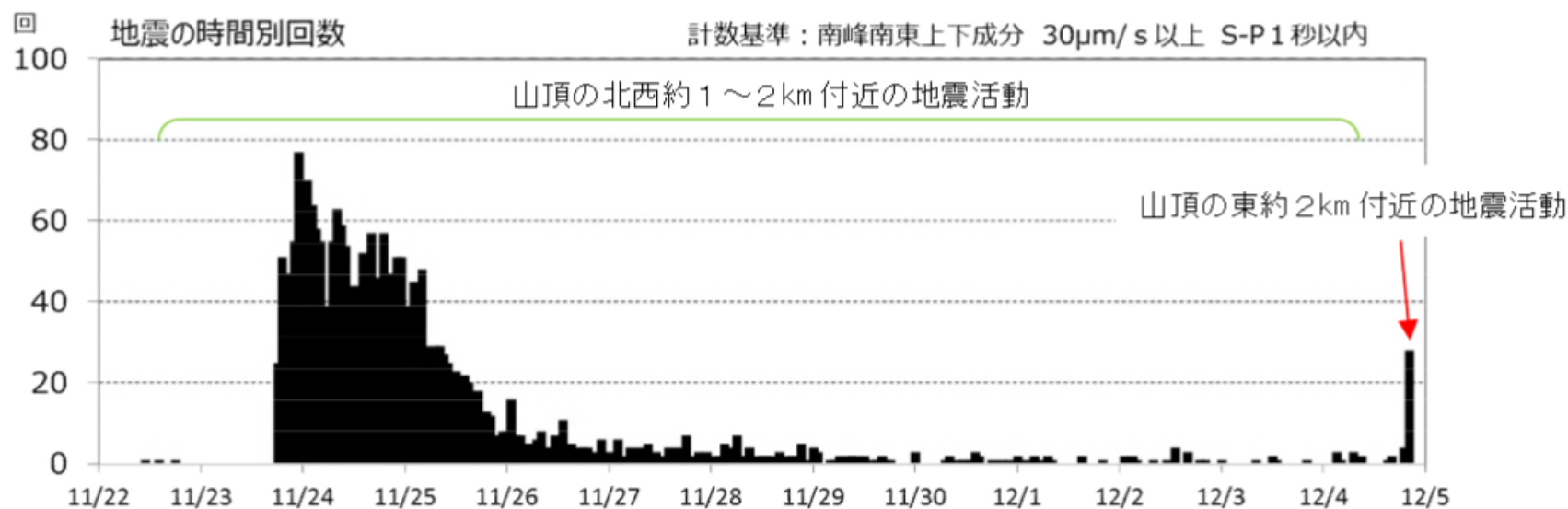
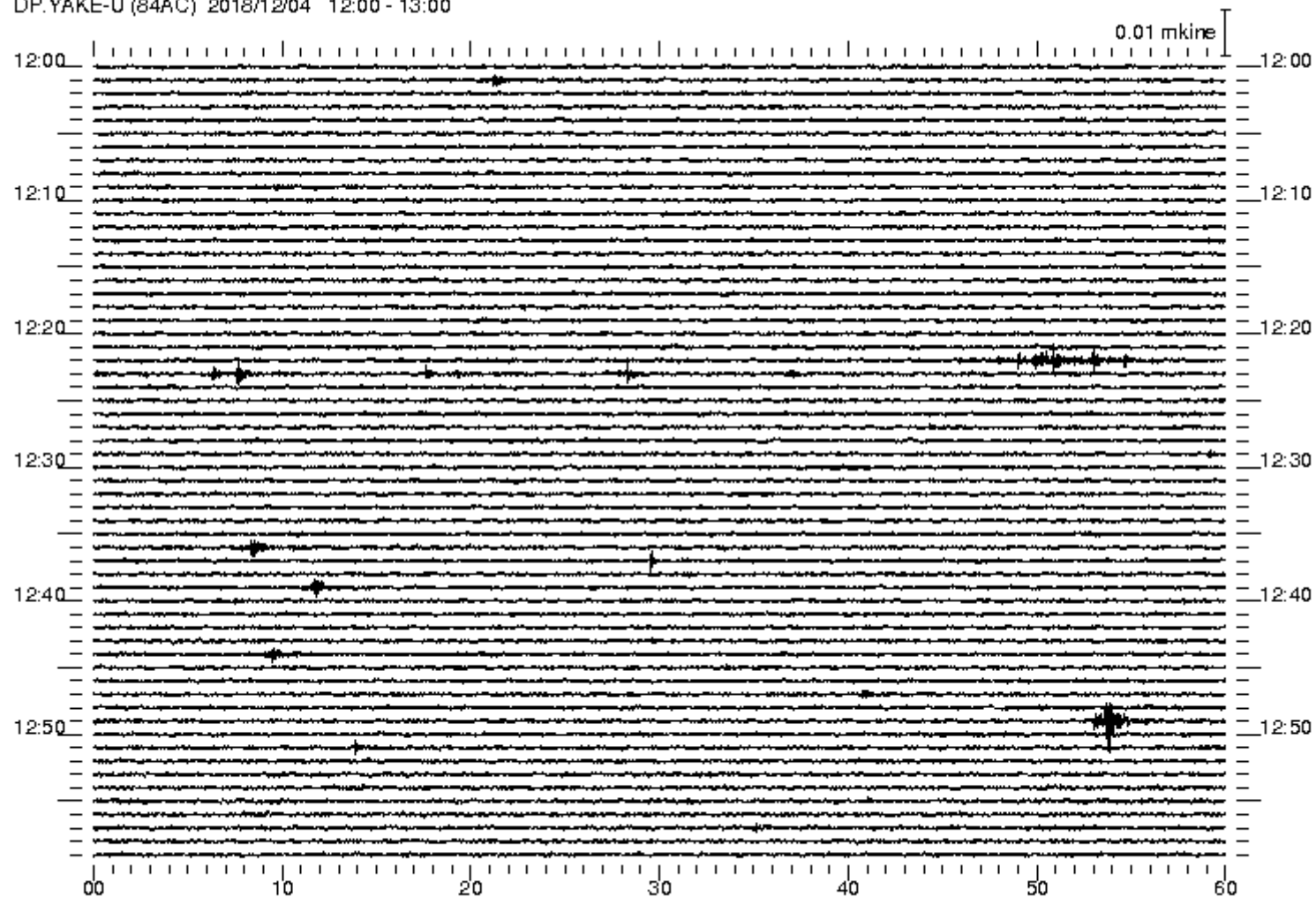
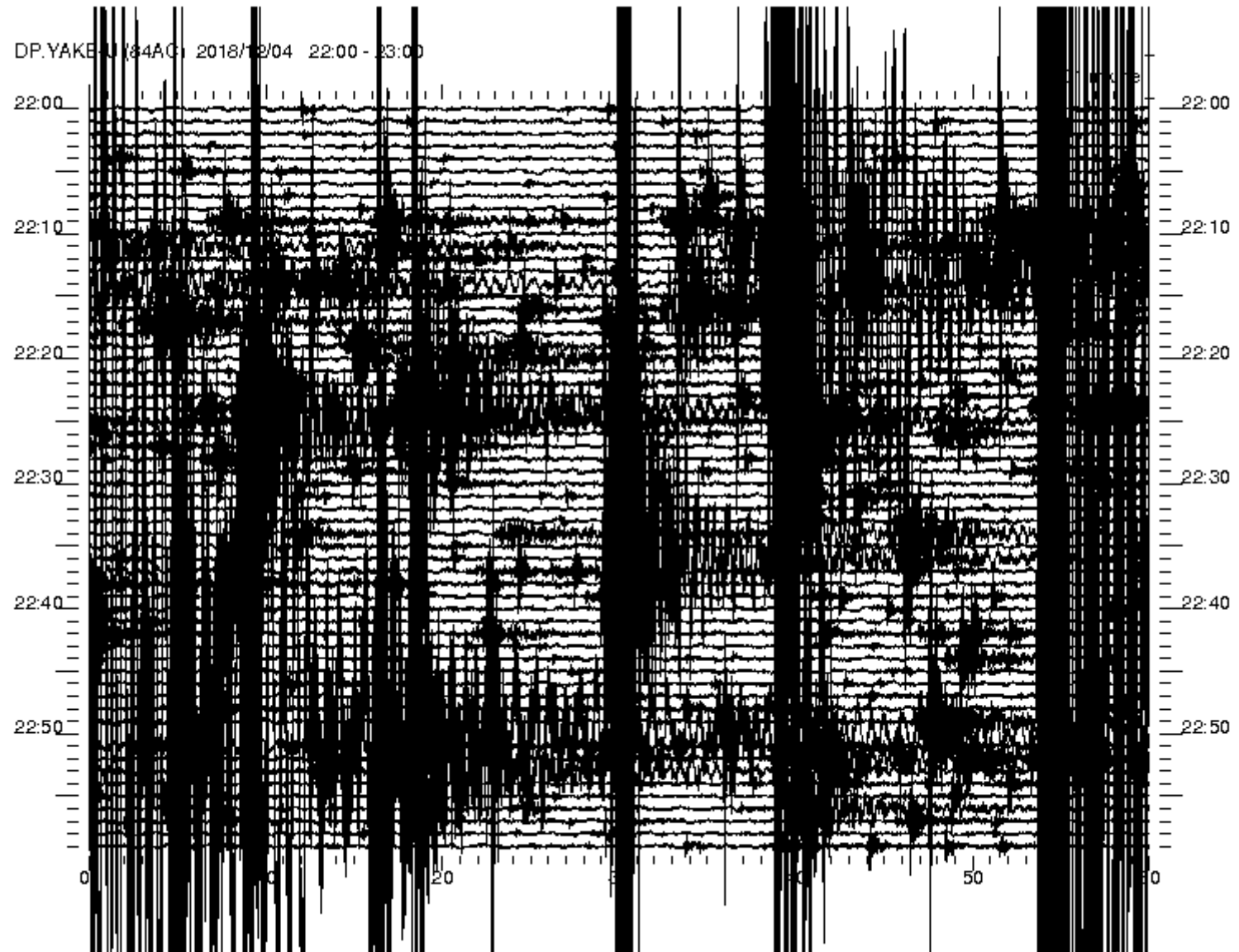


図1 焼岳 やや振幅の大きな地震の時間別回数（2018年11月22日～12月4日21時）

DP.YAKE-U (84AC) 2018/12/04 12:00 - 13:00





地動モニタ：地震情報表示システム <http://wsat.ktj.rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp/>